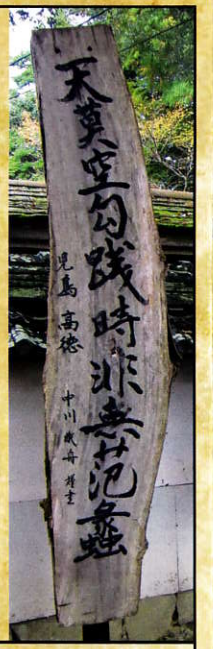
門前に掲げられた十字の詩

天勾践を空しうすること莫れ
時に范蠡無きにしも非ず



意味
天は越王・勾践（中国春秋時代の王）に対するように、決して帝をお見捨てにはなりません。必ずや范蠡のような忠臣が現れ、帝をお助けする事でしょう。
どうかご安心ください。

元弘の変に敗れ隠岐に流される途中の後醍醐天皇へ「児島高徳」という忠義の武士が桜の木に刻んだ十字の詩です。

後醍醐天皇の南朝皇居である、この吉水神社では十字の漢詩を後世に大切に残すためにこの吉野の行宮の門前に掲げています。

吉水院庭園（名勝）

豊臣秀吉が吉野の大花見をした時に、吉水神社（旧吉水院）は花見の本陣となりました。この花見に際して、秀吉自ら基本設計を行った庭園で、安土桃山時代の華やかさを今に伝える「桃山様式の日本庭園」です。

神仙思想に基づく鶴亀蓬莱の庭

本社への通路左手側の池は海、その奥の山は仙人が住む蓬莱島の須弥山石組みを表しています。手前には天に頭を伸ばした亀島があります。
通路右手側の庭園には鶴島があり、鶴や亀や蓬莱島を探すための船石があります。

邪気祓い所（北闕門）

吉水院（現吉水神社）は大峯山への入山許可書を発行する場所でした。
書院内の庭園北側奥（要拝観料）に「北闕門」があり、古来より山伏達はここで無事平穏を祈り九字による邪気祓いを行ったと言われています。

九字真法による邪気祓い

「九字真法」とは「臨・兵・闘・者・皆・陣・烈・在・前」という九つの言葉を唱え、それに合せて手を刀の型に見立てて陰陽道の「四縦五横」（たて4回よこ5回）に空を切る護身の為のお祓い法です。

吉水神社

世界遺産
紀伊山地の霊場と参詣道

江戸時代の吉水院絵図

吉水神社は元吉水院といい、
吉野山を統率する
修験宗の僧坊でした。
明治時代に神仏分離が
行われ、後醍醐天皇の南朝の皇居であったことから、
明治八年に「吉水神社」と改められました。
第九十六代　後醍醐天皇を祭神とし当時天皇の忠臣
であった楠木正成、吉水院宗信法印を合祀しています。

交通

大阪方面から　近鉄大阪阿部野橋 → 吉野駅（約１時間半）
京都方面から　近鉄京都駅 → 橿原神宮前駅（乗換）→ 吉野駅（約２時間）
名古屋方面から　近鉄名古屋 → 八木（乗換）→ 橿原神宮前駅（乗換）→ 吉野駅（約３時間半）
または　JR 名古屋駅 → 京都（乗換）→ 橿原神宮前駅（乗換）→ 吉野駅（約２時間 50 分）

吉野駅よりロープウェイ → 吉野山駅（約５分）　吉野山駅より徒歩 20 分

拝観料

大人・大学生	400 円
高校生・中学生	300 円
小学生	200 円
団体割引：２０名以上は１割引	

拝観料の一部を文化財保護費とさせていただいております。日本の文化遺産の維持にご協力ください。

UNESCO
United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization
PATRIMONIO MUNDIAL · WORLD HERITAGE · PATRIMOINE MONDIAL

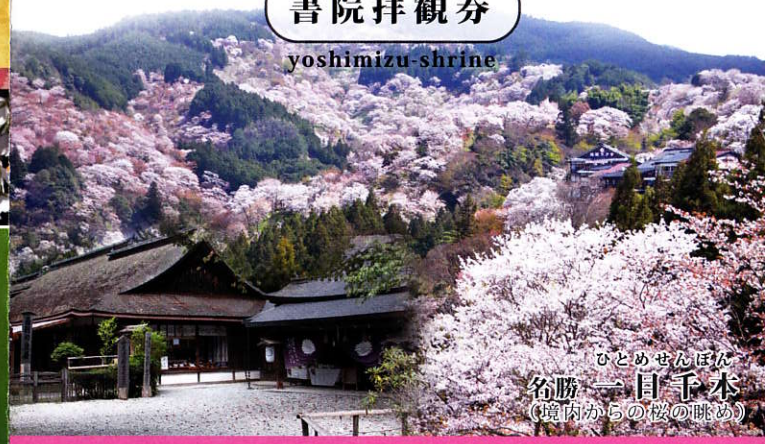
世界遺産

紀伊山地の霊場と参詣道

南朝皇居

吉水神社

書院拝観券
yoshimizu-shrine



名勝　一目千本
（境内からの桜の眺め）

〒639-3115 奈良県吉野郡吉野町吉野山579
TEL:0746-32-3024
http://www.yoshimizu-shrine.com
拝観時間：年中無休　午前九時～午後五時まで

吉水神社書院 拝観展示案内

悠久の歴史に残された文化遺産を間近に感じる事のできる書院

内展示館 ～吉野山の哀史と絢爛の古跡～

白鳳年間　日本最古の書院建築

日本住宅建築史上最古の書院として、ユネスコより世界遺産として登録された書院です。現在の日本住宅の源流をなす最古の実例として数々の珍しい手法が見られ、初期書院造の代表的なものとなっています。

書院内

義経潜居の間は、室町初期の改築で床棚書院の初期の様式を伝える古風な遺構です。

また、秀吉が修理した後醍醐天皇玉座の間は、桃山時代の特徴を残したものです。

役行者像

吉水神社は元吉水院として、今からおよそ千三百年前に役行者が創立した、格式の高い修験宗の僧坊でした。奥の部屋には鬼を従えた役行者の像が祀られています。

書院の庭の北側には、後醍醐天皇が京都へ向かって祈られた北闕門があります。ここで祈ると邪気が祓われると言われています。

北闕門

「身はたとえ南山の苔に埋るとも、魂魄は常に北闕の天を望まんと思う」

後醍醐天皇　辞世の句

文治年間　義経・静御前 潜居の間

義経・静御前 潜居の間・弁慶思案の間

文治元年（1185）兄頼朝の追手に逃れた源義経と静御前は弁慶等と共に吉水院に隠れ住まわれました。

そして哀しくもここが義経と静御前が最後に過ごした場所となりました。

悲運に生きた一代の英雄と佳人とのロマンスの舞台となった吉水院には、この悲恋物語を後世へ伝えてきた数々の遺品が残されています。

「吉野山　峯の白雪踏み分けて
入りにし人の　跡ぞ恋しき」　静御前

義経の鎧（重要文化財）

展示内容

- 色々威腹巻（義経の鎧）
- 義経の鞍
- 義経の鐙
- 弁慶思案の間
- 弁慶の小手
- 弁慶の武装槍（弁慶七つ道具）
- 静御前の鎧
- 佐藤忠信の兜　など

弁慶七つ道具

安土桃山年間　太閤（豊臣秀吉）花見の品

豊臣秀吉愛用の金屏風

狩野山雪 襖絵

文禄三年（1594）太閤（豊臣秀吉）が吉野で盛大な花見の宴をした際に吉水院を本陣とされ数日間滞在されました。歌の会、お茶の会、お能の会などを開いて天下に権勢を示されました。

一世の英雄が、おのが春を謳歌する豪傑な一面を、展示された様々な豪華絢爛な寄贈物などから感じられます。

「年月を　心にかけし吉野山　花の盛りを今日見つるかな」豊臣秀吉

展示内容

- 襖絵「群鶴」（狩野山雪 作）
- 太閤「吉野之花見図」複製
- 太閤愛用金屏風「竹の図」（狩野山雪筆）
- 太閤愛用金屏風「桜の図」（狩野永徳筆）
- 襖絵「鷹」（狩野山雪 作）
- 湯釜（秀吉公寄贈）
- 青磁の壷、花瓶（秀吉公寄贈）
- 室町、桃山時代能面 十二点

など

南北朝年間　後醍醐天皇玉座

後醍醐天皇玉座

延元元年（1336）京の花山院から行幸された後醍醐天皇が吉野に御潜幸になり吉水宗信の援護のもとに、へき地の吉水院を南朝の皇居とされました。

南朝四代五十七年の歴史はここよりはじめられ、現存する南朝唯一の行宮となっています。

「花にねて　よしや吉野の吉水の　枕の下に石走る音」御製

展示内容

後醍醐天皇御物

- 御製色紙
- 三五中録第二の巻
- 竹文台硯箱
- 石硯
- 笙
- 羊皮太鼓
- 御茶台（大塔宮御所用）
- 陣羽織（大塔宮御所用）
- 金輪寺茶入
- 後醍醐天皇御宸筆
- 矢筒（楠木正成公所持）
- 楠氏系図
- 毘沙門天像（楠木正成所持）

など

文化財・宝物展　合計百数十点の文化財

時代の移り変わりの中で、兵火を免れ大切に残されてきた数々の文化財を、昔のままの書院の中に素朴に展示しています。

それぞれの時代にタイムスリップするかのように日本の国軸である奈良・吉野の悠久の歴史に浸ることのできる展示空間です。

展示内容

- 蝉丸の琵琶（後醍醐天皇所持）
- 千体地蔵（小野篁 筆）
- 十三佛画像
- 茶枳尼天（伝教大師 最澄作）
- 灰佛弁財天（弘法大師 空海作）
- 本居宣長の書
- 水戸光圀公の書状
- 佐々介三郎（助さん）の書代
- 一休和尚（一休さん）の墨書

など